最終更新日 H24.10.24 改修技術 No. 14101101

	EXISTANTIO. TITOTOT		
性能分野	防災性		
大分類	震災後の生活性能維持		
中分類	生活継続可能日数に関する項目		
技術の名称	発電機用燃料の備蓄量増加		
改修技術の概要	・ 非常用発電機が設置されている場合には、燃料タンクを増設することにより非常時の電力をより長時間確保できる。 ・ 油タンクは屋外タンク、屋内タンク、地下タンクの3種類に分類でき、それぞれ設置スペースが必要となるが、屋内タンクは屋内に設置スペースが必要であり、地下タンクは敷地内に埋設することになる。 ・ コスト的には屋外タンクく屋内タンクく地下タンクの順になる。 ・ 工事自体は数週間。(工場でタンク作成に2~3か月必要である。) ・ 年1回の圧力容器の定期点検が必要な場合がある。(ポイラおよび圧力容器安全規則第38条) 「①非常発電機用機料備蓄量の算定 「非常発電機の選定 「②非常用機料備蓄量の算定 「企業の事業機用機料備蓄量の算定 「使用パターンから選定・表1参照) 「収度の過度を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を		
	機哭名称 電力負荷 グレード 使用時間 日使用時 佐老		
	大 (1) 給水ボンブ-1 (2) 給水ボンブ-1 (3) 排水ボンブ-1 (4) 排水ボンブ-1 (4) 排水ボンブ-2 (1) 排水ボンブ-2 (1) 排水ボンブ-2 (1) 排水ボンブ-2 (1) 排気ファン-1 (2) 操気ファン-1 (2) 操気ファン-1 (2) 操気ファン-1 (3) 照明器具-1 (1~31) (1~21) (1~13)		
(出典: 「大規模建築物の給排水設備等の防災対策に関する基準の検討報告書」 平成 22 年 3 月 (株)ジェス、(一財)日本建築防災協			

i	共対の種類司	調査・診断技術 改修技術(劣化を補修する技術 性能を向上させる技術)		
適用	共司住宅のタイプごとの技術の種類は宅のタイプごとの技術ののできません。	S55 年以前供給 中層階段室·壁式(総プロA1)	適用できない	
		S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性がある	
		S56~H2 年供給(総プロB)	使われる可能性がある	
		H3~12 年供給(総プロC)	使われる可能性がある	
		H13 年以降供給(総プロD)	使われる可能性がある	
		(補足) 発電機がある場合		
常にセットで利用 される技術				
共用部分 (躯体・外壁 屋根 建具 設備・配等 専有部分 (設備・配管 その他専有部分) (設備・配管 その他専有部分) (設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき (タンク) 注意すべき主な法令(消防法)		(躯体・外壁 屋根 建具 設備 専有部分(設備・配管 その他専有部分)(設置・運営等で建築基準法以外に注意す (タンク)	情・配管等 その他共用部) でべき主な法令がある設備	
団地で適用した場合 のメリット		住棟まわりの土地が利用できること(仮設以外)() まとまった土地が利用できること (仮設以外)(油タンク設置場所) 住宅の数が多く密度が高い() 特定の設備があること()		
足場の設置が必要)	
工事による居住者への影響	数日以上居住 できない住戸が 発生	該当 非該当 ()	
	一時的な影響 が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可振動 騒音 粉塵 臭気 その他専有部又は専用使用部分に対する制限 ()		
	工事後に続〈影 響が発生	専有部分又は専用使用部分の使用に対す 日照・採光等への影響 (· る制限 ())	
当該技術が利用される 工事 技術的限界		計画修繕工事(劣化の補修 性能の	向上)	
		耐震改修工事(耐震性の向上 他の	性能の向上)	
参考資料	技術情報			
算 料	価格情報			